

妊産婦・子育て世代の震災時の 困難な状況、それからの取り組み

一般社団法人マザー・ウイング理事 小川 ゆみ
仙台市子育てふれあいプラザのびすく泉中央副館長



平成27年3月15日
施:TKPガーデンシティ仙台

はじめに…

- 「すぐに駆けつける支援」と「長く寄り添う支援」の両輪の活動を平時より整えること
- 子育て中の親子と地域、支援者が「ともに歩む」ことの大切さ

災害から母子を守るために
地域、支援者、専門家が
情報をどう共有し、伝えて
行けば良いのか



1. 地域の子育て支援拠点『のびすく泉中央』

概 要	内 容
開館	平成21年4月28日開館
利用者数	平成25年度来館者数59,947人 1日平均196人、相談件数300件／年
事業内容	・乳幼児親子のひろば（地域子育て支援拠点事業） ・一時預かり ・中高生居場所事業 ・子育て支援者支援
特徴的な事業	父親支援、プレパパママ教室、震災後の心のケア



2. 震災後の乳幼児親子の困難な状況

2011年3月11日
あなたはどこにいて
何をしていましたか？



具体的に自分がどうい
う状況になるのか、イメ
ージを持つことが大事



①東日本大震災での被害状況

平成2011.3.11午後14時46分震度6強 (M9)

- 来館者65名(大人29人、子ども33人、託児3人)
- スタッフ6名で誘導
- 託児利用者最後の引き渡しは19時50分
- 最低気温 -2.5°C (最高6度)

強い揺れを感じながら、はげしい余震の中、スタッフは来館者が安全に落ち着いて行動ができるよう呼びかけ、来館者を取り囲んで守った。



↑ 託児室

↑ ベビーカー置き場前



↑ スタッフ居室

③地震発生後すぐに出来る支援の見直し - 情報の提供・共有 -

支援側の意識変革

- 小さな揺れでも動く
- 子ども・親への声掛けの仕方をマニュアル化し、実践
- 地震情報の収集
- 他施設との連携
- 防災訓練の徹底
- 中規模程度の地震マニュアル作成(地震の規模ごとに目安設定)
- 発生後～揺れが収まった時～避難後まで、詳しく実施できることをマニュアル化

母親への啓発

- 災害時のお子さんへの声掛けの仕方
- 乳幼児防災講座の開催
- 地域とのつながりを持つことや、支援してもらうことの大切さを伝える



毎年、乳幼児のための防災講座を実施。

マニュアル例

防災マニュアル（声かけ編・大人）

状況確認・情報提供

- ・ 駐車場の安全確認、地下鉄運行状況などの確認、仙台市へ連絡、指示をもらう。
「仙台市より安全が確認されるまで一緒に同行をお願いします。」
- ・ 通信手段がない場合は、館長判断で来館者を解放する。

「ご自宅へ帰る方法がない方は申し出て下さい。」

「ご自宅付近の避難所はわかりますか？」

「帰る道も注意してください。自宅が入れない状況の場合は、近隣の方に助けを求めて下さい。」

「一人でがんばらないで必ず声を出して」

避難の声かけについては咄嗟に声が出ないため、マニュアルにある声かけ例を、小さな地震の際に意識して使うようにしている。

マニュアル例

防災マニュアル（声かけ編・こども）

①安全の確保

「ママがそばにいるから大丈夫だよ。」

「地面が揺れてる時はママと一緒にいようね。」

「この建物にいれば大丈夫だよ。」

「びっくりしたね。ママといれば大丈夫だよ。」

②避難

「外に出ることになるから、靴をはこうね。」

「みんな一緒だから大丈夫だよ。」

「みんなで●●ちゃんを守るから怖くないよ。」

支援者の緊張は来館者への緊張となり、子どもへの緊張とつながる。地震がちょっとでもあると「また地震なの?」「地震、コワイ」など怖がる子が多いため、親と一緒に子どもにも声をかけるようにした。

②地震発生後すぐに出来る支援の見直し - かけつける支援とメッセージの発信 -

おしゃべりダイヤル開設

H23年4月19日～5月31日

震災への不安やママの気持ちを聴く

- ①今、遊びに行ける施設情報
- ②一時預かり情報
- ③相談機関の紹介などの情報提供
- ④青空ひろば（駐車場で開催）

平成23年4月16日、4月19日、21日



改めて顔を見て話すことの大切さを実感した時間

あの大地震から1か月が経とうとしています。のびすく泉中央はいまだ開館のめどは立っていませんが、1日も早く皆さんと顔を見てお話ができるよう、館外での事業を考えているところです。

お子さんの様子はどうですか。
そして、ママ自身の気持ちや体調はいかがでしょう？

非常事態の中、小さい子を抱えて、気を張りつめて過ごされている方も多いと思います。また、昨日の大きな余震は、今まで前に向いていた気持ちも押し返してしまうような恐ろしさがありましたね。心に大きなショック、動揺があるのも当然です。

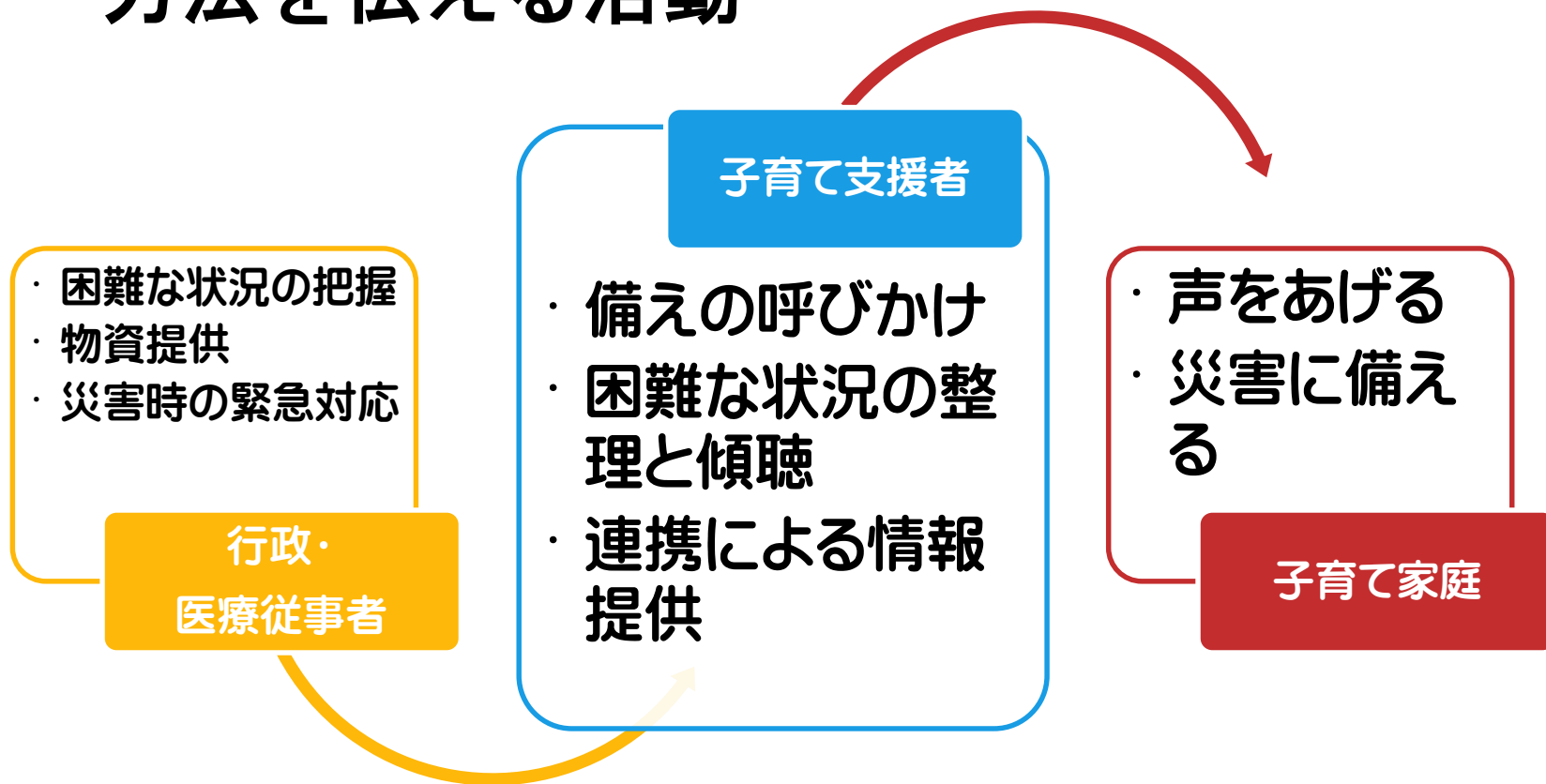
不安でたまらない、
気持ちが沈んでふさぎ込んでしまう、など、
苦しさや心配事を
抱えていませんか？

どうか1人で抱えずに、
誰かに話してみてください。
2011年4月13日のブログより



③乳幼児親子のための防災・減災

- ・ 当事者の親子に、家族を守る具体的な方法を伝える活動



3. 長期的な支援と親子の心のケアの必要性

①いつも以上に気を配る

イライラとしている、落ち込んで元気がない、周りに攻撃的、必要以上に人と関わる・関わらない等がないかどうか気を配る。

②じっくりと話をする

言葉が出て来る年齢の子どもたちには、なるべくリラックスした雰囲気、たくさん「気持ち」を吐き出してもらうことが大切。「怖かったね」「そう感じたんだね」「そういう風に感じる事はいけないことではないよ」などの言葉がけが効果がある。

③被災の度合いは本人が「大変と感じる」かどうか。

震災後は周りに気を遣って自分の気持ちを置き去りにする人が多かった。恐れ、不安、辛いという気持ちは誰でもが感じていいもの、というメッセージを出し続けた。

- 第1仮設場所オープン
4月28日～6月30日
- 第2仮設場所オープン
7月1日～11月30日



①地域やコミュニティとのつながりのお手本になる



②地域で頼れる場所・人、そして専門家へ 親子をつないでいく活動

●訪問型子育て支援一ホ ームスタート

・利用者：転勤、育休中、初めての子育て、多子、年子、頼れる親族がいない人などへ
ボランティアが訪問する支援
＜訪問活動＞

病院、健診、買い物への付添、一緒に遊ぶ、公園や子育て支援施設で遊ぶ、一緒に幼稚園のお迎え、下の子の相手（お母さんと上の子の時間を作る）、子どもの習い事の付添い など



他の子育て支援施設や仕事復帰や
社会とつながるとつながるきっかけを促す活動。

「外に出て人と繋がる事が安心」
と母親に感じてもらうための子育て支援事業



＜訪問を受けた母親からの声＞

- ・話を聞いてもらうことで何かが変わると思わなかったが、誰かから「大丈夫よ」という言葉をもらったり、優しく話を聞いてくれることでこんなに安心できることが実感できた
- ・誰かを頼ってはいけない、という思いが変わった。
- ・子育てが辛くて何から手をつけて良いか、混乱した渦の中から救ってもらった

子育て中の親子に「受援力」をつけてもらうには、地域で頼れる場所、人、専門家へつなぎながらも、一緒に歩いて行く姿勢が求められている

支援する人自身も自分だけのほっとした
時間を持つことも大切…



この活動が復興の一助となることを
願って・・・



ウキウキ 4月